

## 和歌山病院での実習を終えて



小形 光

この度、呼吸器内科臨床実習の一環として和歌山病院にて実習をさせていただきました。2日間という短い時間でしたが、多くのことを学ぶことができました。

まず、和歌山の結核拠点病院ということで、結核について教えていただきました。結核菌の感染様式は空気感染であり、飛沫核が肺胞に到達し、肺胞マクロファージに取り込まれることで感染する。このことから、患者は外科用マスク、周りの人はN95マスクをするといった空気感染予防策を行い、接触感染予防策などは基本的に必要ない。このような理論的なことをセミナー形式で教えて頂いた後に、実際に結核病棟を見学し、N95をつける体験をしました。これによって理論と実践が結びついて、より結核についての理解を深めることができました。

次に、胸部レントゲン写真の読み方や、肺区域について教えていただきました。胸部レントゲン写真において線が見える条件を知ること、なぜそう見えるのか、なぜそこに線が見えるのか考えることができ、胸部レントゲン写真の正常像を理解しやすくなりました。肺区域については、「ブロンコ体操」を教えていただき、肺区域を体で覚えることができました。

また、人工呼吸器を触ったり、実際に体験させていただきました。乾燥した空気を吸う不快感や、人工呼吸器の動作モードの違いを体感することができました。

1日目の終わりに、南方先生と夕食をご一緒させていただきました。宮古姫の伝説など、御坊市にまつわるお話や、新専門医制度について、「いい医者」になることについてのお話などをしていただき、とても充実した時間をすごさせていただきました。

最後に、素晴らしい学びの機会をくださった南方院長先生、駿田副院長先生、スタッフの方々に心から感謝申し上げます。